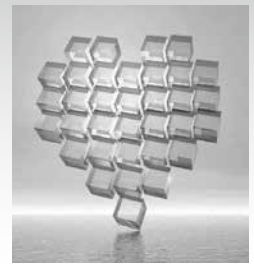


2013 年度 長尾真記念特別賞紹介



選定にあたって 西尾章治郎

長尾真記念特別賞選定委員会委員長／
大阪大学大学院情報科学研究科

長尾真記念特別賞は、本会第 20 代会長を務められた長尾真先生(京都大学名誉教授)から寄贈いただいた資金により、情報処理の学術、技術にかかわる分野で、その研究・開発に特に顕著な貢献が認められ、今後もその進歩、発展が期待される若手研究者を表彰するため 2005 年度に設けられた。対象を 39 歳以下とし、卓越した業績をあげるに足る研究歴と今後のさらなる研究を奨励するに値する若さを併せ持った年代に設定している。本賞は本会の若手研究者を表彰対象とする賞としては最も権威が高く、受賞者数は毎年最大 3 名に限られている。歴史的には、坂井記念特別賞 (1992 ~ 2002 年度)、研究開発奨励賞 (2003, 2004 年度) を継承するものである。

受賞者の選定は、長尾真記念特別賞候補者選定手続に基づき行われる。公募による推薦により、2013 年度は 9 名の候補者が推薦された。これらの候補者に対して長尾真記念特別賞選定委員会による厳正な審査の結果、3 名の受賞者を選定し、理事会で承認された。6 月 4 日の 2014 年度定時総会において表彰が行われ、表彰状と賞金が授与された。2013 年度の受賞者は次の 3 君である。

- 確率的潜在変数モデルに基づくデータマイニングに関する研究(岩田具治君)
- ウェアラブルコンピューティング技術に基づく実世界指向エンタテインメントシステムの研究(寺田努君)
- 自然言語の深い構文・意味解析の研究とその応用(宮尾祐介君)

いずれも、新しい分野を切り拓くとともに今後の発展が期待される優れた研究業績を有する若手研究者である。詳しくは受賞者本人による紹介記事をご

覧いただきたい。

岩田具治君は、複雑な構造を持つパターンの発見や Web のようにノイズの多い不確実なデータへの適用に適した独自のデータマイニング技術を考案し、マーケティング、ファッション、ソーシャルネットワークワーキングなどさまざまな分野への適用を通してその有効性を示している。特に、異なる複数データ間の対応関係を発見する新技術は、本格的なビッグデータ時代を迎え威力を発揮することが期待される。寺田努君は、ウェアラブルコンピュータ技術について基盤から応用に至るまで幅広く先駆的な取り組みを行っており、それらのダンス、バイクレース、ステージパフォーマンス支援などへの適用をプロフェッショナルの真剣勝負の場で運用して実用性を示してきたことが特筆される。こうした技術は著名芸能人による利用を通して社会への普及が実現しつつある。宮尾祐介君は、従来不可能と考えられてきた深い構文解析の実用化に欠かせない独自手法の提案を行い、構文解析の精度や速度を劇的に向上させるとともに、大規模文法をコーパスから半自動的に獲得することを可能とした。生命科学分野での応用を通して、同手法が今後重要となる意味検索にも寄与し得ることを示している。

長尾真記念特別賞は、2014 年度にも選定が行われる。将来を担う優れた若手研究者を励ますべく、会員諸氏からの積極的なご推薦をぜひともお願いしたい。改めて本賞の実現にご尽力を賜った長尾真先生に深甚なる謝意を表するとともに、今回受賞された 3 君の今後のさらなる国際的なご活躍を祈念して、結びの言葉とさせていただきます。

(2014 年 6 月 5 日)